11 11 11		タイトルある冬の日	評価者 一般審査員A	怖さ 16	表満点 鋭さ 15	新しさ 15	ユーモアさ 16	意外さ 16	合計 78	書評 ただの胸糞悪い話なのか、それともブラックユーモアなのか。半々といったとこスーツケースに娘が入っている、という以外は特になにもない話である。説明して、深さはない。もう少し深い意味とかを加えてみるといいかも。一つ思ったこと警察に通報すれば、妻(元妻?)は逮捕されるのではないか、ということ。案外
	やま やま	ある冬の日ある冬の日	一般審査員B 一般審査員C	9		8	7 18	8 20	93	
11	やま	ある冬の日	一般審査員D	16	12	17	14	14	73	ので、嫉妬の対象?娘をスーツケースに詰めて(当然絶命)送ったのは、憎い番辛い方法で苦しめたかったからでしょうか。次から次へと負の考えが頭を駆ました。こんなに恐ろしい想像を呼び起こされる作品には、久々に巡り会いまし作者の方の恐怖の才能に、拍手を送りたいです。 パートナーからもDVやモラハラを受けて避難する方は多々いると思いますが、込みどころが多すぎて読んでいて気分が悪くなってしまいました。そもそも、パナーのモラハラから逃れるために自分一人で逃げ出したのに子どもに会わせ、うのは都合が良すぎるのでは…恐らく、酷い母親像を描こうとしていたのかもしせんが父親も十分ひどいと思います。
	やま	ある冬の日	一般審査員E	8	12	10	10	12	52	せんが父親も十分ひどいと思います。 夫婦喧嘩から始まる日常的な不穏さが、ラストで一気にホラーへと転化する構 見事な作品です。最初は嫌がらせに疲れた夫の愚痴」として読者を油断させ 狂気が次第に輪郭を持ちはじめたところで、「娘に会わせてくれ」という一言が の伏線として効いてきます。そして「荷物で送った」という言葉とスーツケースの 重なる瞬間、日常の延長線上にあった恐怖が突如として現実味を帯び、強烈 を残します。 説明を極限まで削いだことで、妻の動機や経緯が読者の想像に委ねられ、か
11	やま	ある冬の日	一般審査員F	18	17	18	15	18		恐怖が増幅されている点も秀逸です。惨劇を直接描かず、音と会話だけでここ ゾッとさせる筆致は非常に巧みで、短編怪談として完成度の高い一作だと思した。 妻のヒトコワ具合が見事ですね。着の身着のままで飛び出してきたのに、アパ借りられるのか、とか色々突っ込み所はありますが、突然家を出て来たのにもらず、妻に新しい住所を知られていて荷物を送りつけてくるというのがヤバい。幾つぐらいの年頃かはわからないけど、そんな形で娘に会わせてあげる、とか外を通り越して異常、でした。そんな妻だったら、そりゃ、耐え切れず逃げ出した
11	やま	ある冬の日	一般審査員G	17		14		18	85	なるでしょうね。 酷い話というか、なんというか。娘さんは殺されてスーツケースに詰められたと とでしょう。嫌がらせのためにそこまでやるのか?という非情さと容赦なく「不と 貼り付けてくる狂気がじわっと嫌な汗をかかせてきますね。ラストの一行がとて い演出になってると思います。最後まで読んだあとのぞくっとする感じがよかっ す。この後夫はきっと絶叫しながらスーツケースを開けるのでしょう。もしくは絶 て恐る恐る開けるのか。どちらにしても次のシーンが鮮明に想像されて嫌です 見事です。
	やま	ある冬の日	一般審査員H	5	5	6	5	15		怖さ、これは、、人怖なんですかね?結局。スーツケースに入れられた娘は生るのかそれとも?疑問はありますが、怪奇と言うには怖さが欠けています。鋭には感じられませんでした。徐々に不穏な空気を漂わせる、などしてみても良しれません。新しさ、も感じませんでしたね。毎日大量に送られて来る荷物、で程度推察出来てしまいますので。ユーモアさ、ここは本当に全く分かりませんでた。意外さ、強いて言うなら、我が子を物みたいに扱える母親、でしょうか。そうた点では怪異と言うよりホラー感はありますかね。
11		 	一般審査員	5	5	1	5	15		子供をスーツケースに詰めて宅配便で送った妻とは何なんでしょうか。 重たいスーツケースを受け取り1か月放置した夫とは何なんでしょうか。 ありえなさすぎて没入できません。 前提条件を提示してほしいです。 ショートの難しさってこういうところですよね。 普遍性を担保しないと話が入ってこないんですよね。 ここで怪談脳を発揮して解釈いたしますと いずれかの段階でお亡くなりになっていたお子さんが
11	やま	ある冬の日	一般審査員J	15 131	15 125	17 124	17 125	15 144	79 649	いすれかの段階でお亡くなりになっていたお子さんが 両親が自分の話をしている! 今がチャンス! と、存在を主張してきたのですね。 とても悲しいですね。 女性からのDV家庭から逃げ出した主人公の妻の行いが非常に怖いと思わせ お子さんがどうなったのかが非常に気になる
No 10	投稿者 やま	タイトル妹	合計 評価者 一般審査員A	131 怖さ 17	鋭さ	124 新しさ 16	ユーモアさ	144 意外さ 17	合計 83	書評 なるほどね。よく説明不足に怒ってるけれど、事情が全部理解できてしまうのもない。まあ、それでもよく構成されているので、まったく説明されていないものよは評価は高くなる。「いたぶってきた」ってそういうことか、というのが完全にわったっているので、それ以上の深みがない。もう少しぼかしてみてもよかったれない。まあ、単なる怖い話かなーという印象。あんまり怖くない話もあるのでは褒め言葉です。
10	やま やま	妹	一般審査員B 一般審査員C	19	18	18	7 18	19	92	ちょっと意味がわからないですね。お兄ちゃんじゃなくてお父さんは、だれ目線 てるのかと、子供の父親を呪うとか曖昧な呪いはないと思いますよ。そんな呪 かけ方で自分が死ぬ事はないと思われます。 これは完璧だと思いました。オカルトと人怖の融合、素晴らしすぎます。最後の 言葉一つで、一気に人怖になってしまう作者の手法、心底震えが止まらなかっ す。兄の妹への執着、これがまた不気味ですし、言葉のチョイスも非常に良い をかけた結果真実が明るみに出るもいうのも素晴らしい。この短い文章の中て 承転結をしっかりと抑え、しかも恐怖のどん底に突き落としてくれる、秀逸です
10	やま	妹	一般審査員D	18	16	17	18	17		の悪さもこの作品については必要悪だと思えます。あらゆる意味での恐怖体験りがとうございました。 胸糞悪い話且つ、いろいろな意味で怖い話でした。初め語り手が女性だと思っまったのでオチの意味が全く理解できなかったのですが、少し考えてからやった感じました。同性の家族間の妬みからくる呪いの話はありますが、異性間ではあるものなのでしょうか?私に異性のきょうだいがいないのでびんと来ませ、男性の女性を下に見ている感覚はよく分かります。最終的に女の勝ち。この終
10	やま	妹	一般審査員E	12	14	10	10	14	60	方で良かったと思います。 呪いという超常的な恐怖から始まりながら、最後の一文で現実的な戦慄へと東構成が見事な作品です。前半では妹を妬み、呪う兄の独白が続きますが、ラ「お兄ちゃんじゃなくて、お父さん」という一言によって、読者は突き落とさす。ここで初めて、兄が妹に暴行を加えていた事実が暗示され、呪いとは妹のな過去そのものだったとわかるのです。 二段階で訪れる恐怖――呪いの効力による因果応報と、兄の犯した罪の露呈が強烈に重なり、読後に長く残る不快感と背筋の冷たさを生み出しています。
10	やま	妹	一般審査員F	19	18	18	16	19	90	の邪悪さと報いを、短い文章でここまで描き切った完成度の高い怪談だと思いた。 最初、主さんは女性で、勝手に姉だと思い込んで読んでいましたが、兄、いやだったとは、まさかまさかの展開で、怖さが重なって層になって襲ってくる、そん話でした。結婚してようやく幸せになったと思った妹に、また追い討ちをかける、明いをかける主。子供とその父親が死ぬ呪い。子供を亡くした妹が手渡してきには子供の遺骨。でも、それは自分の子供の遺骨でもある。父親は自分なら、死ぬのは父親である自分一。まあ、自業自得というものでしょうが、主さんはま
10	やま	妹	一般審査員G	14	11	13	11	16		自分に呪いがかかることになるとは思っていなかったでしょうね。胸糞な内容でるけれど、見事な呪い返しですね。一つだけ、SMSだとショートメールになるのこはSNS、ですね。 因果応報という感じのお話ですね。自分に身に覚えのあることしといてなんで、悠長に構えてられるのか?子供はとても可哀想ですが、そもそも父親が兄としは、なんとも胸糞悪い。男に対する不快感が強い分、もっと人怖方面に持っても良かったのかなと思いました。男の人柄の悪さも相まって想像しやすい怖るので、より恐怖心が煽られて良かったと思います。妹は呪詛返しではないけるので、より恐怖心が煽られて良かったと思います。妹は呪詛返しではないけ
10	やま	妹	一般審査員H	5	5	5	4	6		り巡ってくることを予期していたのでしょうね。 うーん。こういう分かりづらい上に胸くそな展開、苦手です。怖さ、敢えて言うなトですが、これもどう捉えていいものやら。。自分の解釈が合ってるのかも分かせん。鋭さ、も感じられませんでした。というのも、「何が言いたいのか」、怪異と何を表現したいのかが伝わって来なかった為です。新しさ、ここも特には。呪いの先にあるもの。デティールとして新しさは無いかと。ユーモアさ、全く要素が見れません。意外さ、書き手としてはラストで衝撃を与える意図があるのでしょう。読み手からしたら「はぁ?どういうこと?」となります。こちらの解釈に任せる、と
10	やま	妹	一般審査員I	10	5	5	5	5		やり方はかなり上手く導かないと、置いてけぼり感が半端ないです。 もの凄く嫌な話じゃないですか! ドン引きです。 語り手である兄の未来は閉じられたので僅かながら溜飲は下がりますが妹さの傷を思うと暗澹たる気持ちになります。 ヒトコワは心にクリーンヒットする場合がありますよね。 彼の認知がこのように歪んでしまったのには生い立ちまで遡る必要があります
10 No 3	やま 投稿者 赤戸青人	妹 タイトル ハッピーハロウィン!	一般審査員J 合計 評価者 一般審査員A	18 139 怖さ 16	124 鋭さ	15 123 新しさ 17	119	15 134 意外さ 16	639 合計	やった事は許されません。 人怖で後味の悪い話だった 主人公がとてもクズのような人間だったことで、とても気分が悪いと思った 主人公がとてもクズのような人間だったことで、とても気分が悪いと思った 書評 もしかしたら悲しい話なのかも、と一瞬思ったが、別段それをにおわせるようなもないので、少し評価が下がった。特に背後にある事情や理由などは思えている。
	赤戸青人	ハッピーハロウィン! ハッピーハロウィン!	一般審査員B 一般審査員C	8	8 15	7	6 15	6 15	35 75	だ起こったことだけを書いているものと見た。故に、少し薄っぺらい印象になっまっている。裏を返せば、背景にある物語まで思いを巡らせ、それを少し付けみるだけで、この怪談は重層的になり評価が上がる、ということである。この季ハロウィンの話を持ってきたのは素直に評価したい。ありがとうございました。端子のスピーカーボタンて何?はじめにインターホンって言ってるし、モニターンでよくないですか。とはいえ話は怖いですね。 主人公宅を訪れた子供には、一体何が憑いているのでしょうか。ハロウィンのをテーマにした設定はとても良いと思いますが、全体的にふわっとしていて、も
3	赤戸青人	ハッピーハロウィン!	一般審査員D	16	18	17	16	15		をテーマにした設定はとても良いと思いますが、全体的にふわっとしていて、もインパクトが欲しいと思いました。例えば子供だと思った訪問者が、子供の霊を連れた死神だったとか。そうするとドアを開けなかっただけではなく、部屋のかまで閉めたことになんとなく納得ができるのではないでしょうか。一見明るい題付け方は、怪談とのギャッブがあっとても好ましいです。わかりやすい言葉のラスも好きです。 季節物でぞくっとしつつ、楽しめる作品でした。子どもたちの笑顔溢れる楽しいトだったはずが、急転直下の恐怖に突き落とされる展開と、本能的に「開けて」ない」と感じているであろう様子が伝わってきてとても良かったです。
	赤戸青人	ハッピーハロウィン! ハッピーハロウィン!	一般審査員E	8	Ŭ	17	12	8		ない」と感じているであろう様子が伝わってきてとても良かったです。 今の季節にぴったりの題材で、ハロウィンの明るさと不穏さが同居した魅力的。 談だと思いました。子どもの声が重なる不思議な光景と、ドアスコーブ越しの削 の対比が効果的で、読み進めるうちにじわじわとした不安が募ります。少ない。 数で怖さを表現する必要があるため、「それなのに大勢の声がする」など説明 なる部分を削り、その分で恐怖を補強する描写を入れると、さらに完成度の高 品になると僣越ながら思いました。 まさに今の時期にピッタリのお話ですね。私自身はハロウィンの文化は身近で
	赤戸青人	ハッピーハロウィン!	一般審查員G	10		15		11	62	いのですが、ハロウィンが根付いた地域では子供達がお菓子を貰いに近所のを回るみたいですね。子供達が各々、ハロウィンに因んだ仮装をして賑やかにを回っている姿は傍目で見ていると可愛いな、とも思いますが、それが声だけには見えない子供達だったら、きっと怖いでしょうね。ハロウィンという題材的にさを感じましたし、ユーモアさも感じた分、怖さの評価としては少し低くなりましたまるで百鬼夜行に遭遇したかのようですね。この子供たちの声は散き餌というならいいんですが、もしこの世に未練のある子供たちの霊が年に一度のハロに化けて出てきたということならちょっと切ないお話です。この子供(たち?)が
3	赤戸青人	ハッピーハロウィン!	一般審查員H	8	6	9	10	9	42	なのか、妖怪なのか、捉え方によって感想が変わると思います。イメージしてしてではないうえに、様子もおかしいというのはドキッとするシチュエーションだとます。怖さでいうとそこまでではなかったかなと思います。 体さ、少なくとも怖くは無かったですね。確かにアスコープを除いてからの展覧といるはある程度ありますが。鋭さ、ハロウィンの賑やかな雰囲気の為かについても感じられませんでした。もう少し、主人公がドアスコープ越しに怪異く場面に緊張感が欲しいです。新しさもあまり。、ハロウィンは確かに現代的で賑やかさから一転、居たのは無表情な子供1人。新しい、とまでは言えないと思
3	赤戸青人	ハッピーハロウィン!	一般審査員I	12	13	5	10	10		版でからから一転、店にのは無表情な子供する。新しい、とまでは言えないとだす。ユーモアさ、淡々と対処する主人公ですかね。意外さ、ここもさしては。思してバッドエンドにしても良かったかも知れません。 これは嫌ですね。 怖い体験です。 自分は決してしたくない! とはいえそもそもハロウィンだからといって近所の子供たちが家々を回るなどと環境にある人は少ないのではないでしょうか。 そこを乗り越えて想像してみますと怖いです。
										無表情の子供が一人立っている。 なのに騒がしい。 私なら泣く。確実に泣く。 そのお子さんは実在されているんでしょうか。 にぎやかなさざめきは人外だと仮定しやすいですね。 恐らく全部ひっくるめて怪異。
	赤戸青人	ハッピーハロウィン! タイトル	一般審査員J 合計 評価者	18 127 怖さ	128	15 125 新しさ		15 121 意外さ	628	ハロウィンに来たというのは煉獄から現世は帰ってこられる日だからでしょうが 怖いです。 でも今日だけ戻ってこられてお菓子をねだり練り歩く存在って思うと切ないです 何とかお菓子をあげたくなります。 訪ねてきた人のようなものは、何かの集合体だったのかが非常に興味深い話 また、招き入れなくて、本当に良かったと思う 書評
	投稿者 赤戸青人 赤戸青人	タイトル 迷子アナウンス 迷子アナウンス	評価者 一般審査員A 一般審査員B	怖さ 15 7	鋭さ 16 8	新しさ 16 6		意外さ 14 8		書評 何かの物語が始まりそうで、始まらない。まあ、短編だからしかたないのだが、らと言って、短編でしか出せない強みを出せているのかというと、そうでもないであることに甘えず、まるで長編を読んだ後のような読後感のある短編を期待る。雰囲気は結構好き。ただし、物語の冒頭として読んだ場合の話。デバートで誰もいないって、子どもにとっては確かに心細いだろう。その感じはよく表現いる。だからこそ、その先の物語に期待してしまうのだ。 パラレルワールドに行ってしまった感じですかね。でも、そこから親切に返して
1	赤戸青人	迷子アナウンス	一般審査員B 一般審査員C	18	ŭ	18		17	85	パラレルワールドに行ってしまった感じですかね。でも、そこから親切に返してのは優しいですね。 異世界に迷い込んだのでしょうか。とても良い設定だと思います。D21という具なエリアを示すようなアナウンスが、よりリアルさを醸し出して自分が本物の異にいるような気持ちになりました。親とはぐれて泣いている時、異世界に入ってきっかけが明確にあるとわかりやすいと思いました。例えば、ガチャガチャのた握りしめていた100円を床に落としてしまったら、カツーンという音と共に周囲が消えた、など。映像が目に浮かぶのではないでしょうか。話し言葉でお話が、ので、深刻になりすぎないのがいいですね。
	赤戸青人	迷子アナウンス	一般審査員D 一般審査員E	16		16		14	74 54	ので、深刻になりすぎないのがいいですね。 自分が子どもの頃、迷子になった時の心細さを思い出しました。いつも人がい が当たり前の空間から急に人の気配がなくなるのは独特な不気味さがあると す。実体験に基づいたお話なのかそうでないのか分かりませんが、心細くなっ 心理描写があと一つあると怖さももっと際立たせることができたような気がしま 異世界に迷い込むタイプの怪談の中でも、「異世界の側から現実世界に戻され いう構図がとても新鮮で印象的でした。描写も無駄がなく、人気のないデバー けさや、機械の声だけが響く不気味さがじわじわと伝わってきます。店内放送
1	赤戸青人	迷子アナウンス	一般審查員F	16	15	16	16	17	80	言が転機となり、現実に引き戻される展開も巧みでした。短い中に異世界と現境が曖昧になる瞬間の怖さがしっかり詰まっており、読後に静かな余韻を残すな怪談だと思います。ただ、もうひと押しゾワッとする描写が加わると、さらに完成度が増すと思いまだ。もうひと押しゾワッとする描写が加わると、さらに完成度が増すと思いまで、一方ので親とはぐれて異世界に迷い込んでしまったんですね。ただでさえ心ろうに、周囲に誰もいな状況に取り残されたら不安で押し潰されてしまいそろ。何がトリガーだったんでしょうか。 D21というのは異世界でのエリアの呼び、でしょうけど、面白いですね。戻って来れて良かったですが、アナウンスはAlic
	赤戸青人	迷子アナウンス	一般審査員G	12		11		10	61	でしょうけど、面白いですね。戻って来れて良かったですが、アナウンスはAllcのなのでしょうか。こんな体験はしたくないですね。 異世界系のお話ですね。迷い込んだけど、誰かの力によって出られたというこ 迷い込んできた人を返す係りがあるのでしょうか。アナウンスのセリフが「お返す。」という言い回しというのが、細かいことですがいいアクセントになっているます。しかし幼少期に取り残されてしまった恐怖や不安感は、本当に異世界に込んでしまったかのようでもあると思います。見慣れた手角もなんだか違って見らい感じますしね。その部分も含めてかけているとしたら面白いですね。 作品の完成度は高いと思います。だだ、怪奇として捉えるとそこまでとは。怖さ
			一般審査員H					Ğ		作品の完成度は高いと思います。だだ、怪奇として捉えるとそこまでとは。怖さ界に迷い込む系の話し。主人公は下手すれば元の世界に戻れなかったわけっが、設定としてはありきたりです。怖い、とまでは思えませんでした。鋭さ、恐怖く瞬間などあれば良かったのですが。鋭くは無いかな。新しさ、ここも弱いです世界へ戻るトリガーが「迷子アナウンス」という部分は珍しさもありますが、根本所が「異世界」もの、である為です。ユーモアさ、あのアナウンスの部分ですか外さ、重複しますが「異世界に迷い込むも無事に戻れる」はテーマとしては最早的手法です。展開も読めてしまいますし。
1	赤戸青人	迷子アナウンス	一般審査員I	10	5	5	5	10		親とはぐれてさぞかし心細かったことでしょう。 どなたも子供の頃体験したのではないでしょうか。 そんな誰にでもありそうな体験談と思わせて短時間パラレルワールドのような 迷い込んだ体験ですね。 d21とはどこの何なのか。 インスが迷子ではなくて迷い子と言っているのもこの世界に期せずしてや 来た事が分かります。 面白いですね。
1	赤戸青人	迷子アナウンス	一般審査員J 合計	15 132		12 119		14 125	70 620	面白いですね。 無事に戻られてよかったです。 ふと記憶が呼び戻されて子供の頃のアレってなんだったのかなと懐かしさや組 共に思い出されそうな切なさもあり、好きなお話です。 項目別ですと点数を入れづらいのが残念です。 パラレルワールドの話でとても不思議な話だった デパートに入口と出口があったんだろうと思いました
No 2	投稿者鴨ちゃん	タイトル お化け屋敷	評価者 一般審査員A	怖さ 15	鋭さ 17	新しさ 17	ユーモアさ 17	125 意外さ 17	合計 83	書評 なんかまあまあ高い得点をつけたが、怪談としてはそんなに評価できない。な全体的に軽いから。そんなに怖くない。ただ、評価項目はきちんと満たしているで、この点数になった。よく練られた怪談である。ただ、ちょっとギャグ(ユーモ・寄りすぎている。受けを狙うのが悪いわけではないのだが、一番大事なのは相ある。お化け屋敷のバイトなんてこれ以上ないシチュエーションなのだから、もそこを活かして、おどろおどろしい雰囲気を出したほうがよかったかもしれない
2	鴨ちゃん	お化け屋敷お化け屋敷	一般審査員B 一般審査員C	6 15	·	7 15	5 15	7 15	75	冬もやってるって事は遊園地のお化け屋敷ですよね。流石に夏から冬まで消らもっとリアクションあるんじゃないでしょうか。 これは異世界に迷い込んだのか、お化け屋敷だけ時間の流れが違うのか・・・ 数ヶ月に相当するという設定が、現実離れしておらず、リアリティがあって良かす。このお化け屋敷が不思議ワールドの元凶だとは思いますが、どんなお化けなのか、どんな立地なのかなどを簡単でいいので盛り込むと、この浦島太郎ダリアリティさが増すのではないでしょうか。このままでも完成度は高いかと思いが、「冒頭のあれは、この結果の伏線だったのか」と思うような文章が予め仕込
	鴨ちゃん	お化け屋敷お化け屋敷	一般審査員D 一般審査員E	12	14	15	17	14	72	が、「冒頭のあれば、この結果の伏線だったのか」と思うような文章が予め仕込あると、読後の満足度がさらにあがるとおします。 面白かったです!だけどスピード感がありすぎてついていけませんでした。真真冬へ、という時間を飛び越えた不思議体験は面白いですがオフシーズンの2 屋敷で、都合よく目の前に同僚がいるのは違和感で冷めてしまいました。 浦島太郎のように、気づけば時が経っていた――そんな発想をお化け屋敷に置えた点がユーモラスで魅力的でした。暗闇の中で同じ動作を繰り返すうちに時 覚が狂っていく描写にもリアリティがあり、読者もその不気味な閉裏感を共有で
2	鴨ちゃん	お化け屋敷	一般審査員F	17	17	17	18	18	87	す。ただし、展開がやや定番で「怖さ」の印象が弱いのが惜しいところです。? 交代に現れた人物の声や姿に、違和感や寒気を感じさせる一言や描写を足せ物語全体に深みと恐怖の余韻が生まれ、より高い完成度に仕上がると思いま確かに、怪談ブームの影響でお化け屋敷も最近また人気のアトラクションですもお化け役のバイト、一度はやってみたいと思いながら、実際そういった募集!ながら見た事がなくて現在に至っていますが、確かに、暗闇の中にいてただたずっと人を驚かせる、という事を繰り返していると、時間の感覚がわからなくらう事はあるかもしれないですね。ただ、夏にバイトを始めたはずなのに、外に出
2	鴨ちゃん	お化け屋敷	一般審査員G	10	11	10	16	13	60	雪景色だった、というのはあまりに突飛すぎて意外でした。本当にそんな事態にたら笑えないし怖いですね。ただ、読む分にはなかなか面白いお話でした。 ラストの文章が文学を感じますね。あえてでしょうか?季節が変わるほどの時過ごしていたとして、お客さんはその間入っていたのかな?と疑問が浮かびまだ、違和感なくそのまま過ごしてしまったということは、定期的にお客さんが入たのでしょう。となると、そのお客さんは本当に人間だったのかな?と思います浦島太郎状態だと思うのですが、過ぎた時間はどこに行ってしまったのか?色察が出てきそうな面白いお話ではありましたが、怖くはなかったです。不思議3伝説のような感じですね。
2	鴨ちゃん	お化け屋敷	一般審査員H	7	6	9	10	12		伝説のような感じですね。 休さ、全く感じませんでした。文体がコミカルな部分も大きいとは思います。それに、主人公の身に起こる奇怪な出来事に怖さの要素が少な過ぎます。鋭さ、こ 前更です。怪異が起こる過程の緊張感が感じられませんでした。新しさ、お化し敷、実は異界に迷い込んでいた?主人公。外に出れば既に冬に。う一ん。既れ端ないです。異界に入り込んだら現実世界では結構な時が経っていた、というユーモアさ、主人公が最後まで異常に気がつかない、吞気な人である点でしょ意外さ、ここは一点。夏のバイトにお化け屋敷に行ったのにいつの間にか外はに、というオチです。
2	鴨ちゃん	お化け屋敷	一般審査員	10	10	5	10	15		面白いです! 行方不明になっていた間関係者は大変だったと思われますので不謹慎ですがい話です。 休憩に行って一服して戻ったら季節が変わっていた。 まるでインターステラーみたいですね。 行方不明になっていたのが推定4か月ほどなので歳を重ねたのか時間の経過かったのか検証は出来ませんがどちらにしろ無事のお帰りで良かったです。
2	鴨ちゃん	お化け屋敷	一般審査員J	15	14	15	15	14		最初に出会ったのはどなただったのでしょう。通年固定のお化け屋敷だったのうか。 とにもかくにも大変驚かれたと思います。 行方不明者が出たのならば暫く営業できなさそうですよね。 雪景色だった。という幕切れが切れ味鋭くこの後の事を想像させられます。 時間感覚が狂ってしまった本人は、人間だったのかそれともお化け屋敷が不足空間だったのかがよくわからなかった 興味深い話だった
No 12	投稿者 やま	タイトル黒い人影	合計 評価者 一般審査員A	115 怖さ 17	鋭さ	118 新しさ 16	ユーモアさ	133 意外さ 16		書評 説明のパランスは丁度いいと思う。説明しすぎでもなく、まったく説明していないでもない。しかし、オチについては、いささか唐突で、脈絡がないような気もするあ、実話怪談として見れば、当然のことなのかもしれないのだが、その場合、見て語るに値するほど面白い話なのだろうか、という疑問が。まあ、これは結構が高い話だし、人によって意見も違うと思うから、聞き流して(読み流して)くだ
12	やま やま	黒い人影	一般審査員B 一般審査員C	17		7 15	7 16	10	78	及第点。 良いですね。父親を埋めた告白からの実は別に女性もころしていたというオチ 性があってしかも絶妙にいろんな伏線が絡み合って素晴らしいです。 人怖と霊怖の融合、素晴らしいです。そもそもご主人を殺したというのは本当れ しょうか。もし本当だとしたら、ご主人と若い女、2人を殺したのでしょうか。痴情 つれからなのか、人を2人殺しているのが恐ろしい。そして、もっと恐ろしいのに 嘘をついていること。この人怖が私にとっては1番怖かったです。この女田 の言葉を知ったましかはどうよろの名里。
	やま やま	黒い人影	一般審査員D 一般審査員E	18		14	17	18	86	の真実を知った主人公はどうするのでしょうか。母親を問いただす?その結果 行が娘に知られた母親は娘を生かしておくのでしょうか。嘘を見抜いた主人公 人にまで類が及ばないと良いのですが。これだけの想像力を掻き立てられる、 らしい作品でした。 定番のパターンなのに最後のたった一言で一気に怖くなりました。ありがとうこ ます。 母の背中に見えた黒い影という日常的な恐怖描写から始まり、母の過去の犯 う現実的衝撃に繋がる構成が巧みです。「娘を守るため」という母の動機が語
12 12	1	黒い人影	一般審査員F	17	17	17	16	18	85	ことで、読者は心理的な葛藤と緊張感を同時に味わえます。ラストでは、友人 い女の霊が見えたと描かれ、母の説明と食い違うことで謎が残り、恐怖の余前 り深くしています。視覚的恐怖と心理的恐怖を両立させた短編として完成度の 怪談です。 母の背中に見えた黒い人影。声まで聞こえるようになり、問い質した時の母の から、母が父から暴力を振るわれ、自分を守る為に父を殺してしまい、埋めた る。その父親の怨念が黒い影となって、母にずっと愚いているのだと思ってい ど、霊感があるという友人が母を見て、何かが愚いている、と言ったから、当然
12	やま									文親の霊が見えていると思ったら違って、まさかの若い女の人だと言う。それ でした。お母さんとどういう関係?もしかして、父親の浮気相手?お母さんはも 人手にかけていた?とか、色々疑問が浮かんできますが、真実はどうなんでし
12	やま	黒い人影	一般審査員G	10	10	10	12	15		まったのか、そもそも女の人はどういう立場の人なのか。父の不倫相手?実にの母親?何も関係ない人?この場合は不倫相手と考えるのが一番わかりやすしょうか。では父の方はどうしたのか?誰をどうして殺したのか、疑問が残りま
12		黒い人影	一般審査員G 一般審査員H	8	6	5	12	15	27	まったのか、そもそも女の人はどういう立場の人なのか。父の不倫相手?実にの母親?何も関係ない人?この場合は不倫相手と考えるのが一番わかりやさしょうか。では父の方はどうしたのか?誰をどうして殺したのか、疑問が残りまこからミステリーが始まるような感じはいいですが、怖さが少し控えめかなと思た。例えばもっと形容しがたい化け物だったりとか、殺害されたであろう人物にが当たるような一節を入れてみるというのもいいかもしれません。怖さ、怪奇としての怖さ、というよりは、これ、人怖ですよね?娘に平然と嘘を発息。実際殺された霊も出てはくるんですが、全体的に見ると怖さは弱いです。看ちょっと文章が単調と言うか、主人公が恐怖する瞬間などがない為、鋭くは無な、と。新しさ、主人公には黒い影に見えていたものが実は、、というのもよく見法ですので、新しくは無いと思います。ユーモアさ、母親の底知れなさが不気ユーモアには結びつきませんでした。意外さ、母親が殺したのが夫では無く、「
12	やま				6				33	まったのか、そもそも女の人はどういう立場の人なのか。父の不倫相手?実にの母親?何も関係ない人?この場合は不倫相手と考えるのが、発問が残りました。からミステリーが始まるような感じはいいですが、怖さが少し控えめかなと思た。例えばもっと形容しがたい化け物だったりとか、殺害されたであろう人物にが当たるような一節を入れてみるというのもいいかもしれません。 情さ、怪奇としての怖さ、というよりは、これ、人怖ですよね?娘に平然と嘘を発息、実際殺された霊も出てはくるんですが、全体的に見ると怖さは弱いです。 まょっと文章が単調と言うか、主人公が恐怖する瞬間などがない為、鋭くは無な、と。新しさ、主人公には黒い影に見えていたものが実は、、というのもよく見ユーモアには結びつきませんでした。 意外さ、母親が殺したのが夫では無く、「女」。これが意味するものとは?嫉妬?何でしょうね? 読み終えて、おうってなりました。 多分ですけど背後の女性は5代前のご先祖ですね。 私の勘がそう言っております。 その方のおカを借りてお母様は大それたことをやり切ったのでしょう。そこからしばしの年月、殺されたお父さんと先祖の女性は相争います。 やはりですね、5代前の力というのは侮れないものでご先祖様が勝利し、お父
12 12 12	やま	黒い人影	一般審査員H	8	3	5	5	4	33	まったのか、そもそも女の人はどういう立場の人なのか。父の不倫相手?実にの母親?何も関係ない人?この場合は不倫相手と考えるのが、疑問が残りまこからミステリーが始まるような感じはいいですが、怖さが少し控えめかなと思た。例えばもつと形容しがたい化け物だったりとか、殺害されたであろう人物にが当たるような一節を入れてみるというのもいいかもしれません。 「株さ、怪奇としての怖さ、というよりは、これ、人体ですよね?娘に平然と嘘を引起、実際殺された霊も出てはくるんですが、全体的に見ると怖さは弱いです。まちょっと文章が単調と言うか、主人公が恐怖する瞬間などがない為、鋭くは無いな、と、新しさ、主人公には黒い影に見えていたものが実は、というのもよう法ですので、新しくは黒い影に見えていたものが実は、というのもよう法ですので、新しくは黒い影に見えていたものが実は、というのもよう法ですので、新しくは黒い影に見えていたものが実は、というのもよう法ですので、新しくは黒い影に見えていたものが実は、というのもよう法ですので、新しくは黒い影に見えていたものが美は、というのもまが、大き、五人公には黒いと思います。ユーモアさ、母親の庭知れなさが不気取ユーモアには結びつきませんでした。意外さ、母親が殺したのが夫では無く、「女」。これが意味するものとは?嫉妬?何でしょうね? 読み終えて、おうってなりました。多分ですけど背後の女性は5代前のご先祖ですね。 私の勘がそう言っております。その方のお力を借りてお母様は大それたことをやり切ったのでしよう。そこからしばしの年月、殺されたお父さんと先祖の女性は相争います。やはりですね、5代前の力というのは侮れないものでご先祖様が勝利し、お父退けられました。 しかしながらDV野郎がなんで殺したって聞いてくるのはおかしいです。なのでお父さんがDV野郎だったというのは真実だったかどうか、そこには疑問ります。女性一人で成人男性を殺めて証拠となる遺体を隠し通せるかというとでは無理です。もっと恐ろしい事が隠されたお話なのかもしれません。主人公の母親が嘘をついていたことでの強さということなのかまいまがます。
12 12 12 12	やま やま	黒い人影	一般審査員H	10	6 15 119 鋭さ	5	4 5 13 117 ユーモアさ	10	27 33 74 613 合計 83	情さ、怪奇としての怖さ、というよりは、これ、人怖ですよね?娘に平然と嘘を名親。実際殺された霊も出てはくるんですが、全体的に見ると怖さは弱いです。針ちょっと文章が単調と言うか、主人公が恐怖する瞬間などがない為、鋭くは無な、と、新しさ、主人公には黒い影に見えていたものが実は、、というのもよく見法ですので、新しくは無いと思います。ユーモアさ、母親の底知れなさが不気吸ユーモアには結びつきませんでした。意外さ、母親が殺したのが夫では無く、「女」。これが意味するものとは?嫉妬?何でしょうね? 読み終えて、おうってなりました。多分ですけど背後の女性は5代前のご先祖ですね。 私の勘がそう言っております。その方のお力を借りてお母様は大それたことをやり切ったのでしょう。そこからしばしの年月、殺されたお父さんと先祖の女性は相争います。やはりですね、5代前の力というのは侮れないものでご先祖様が勝利し、お父。退けられました。しかしながらDV野郎がなんで殺したって聞いてくるのはおかしいです。なのでお父さんがDV野郎だったというのは真実だったかどうか、そこには疑問ります。女性一人で成人男性を殺めて証拠となる遺体を隠し通せるかというとでは無理です。もっと恐ろしい事が隠されたお話なのかもしれません。主人公の母親が嘘をついていたことでの強さということなのか夫が実は、女性たのかというよくわからない話だったもし、前者であるならば、完全犯罪の怖さだった
112	やま やま やま 投稿者	黒い人影	一般審査員H 一般審査員I 一般審査員J 合計 評価者	8 10 15 130 怖さ	6 15 119 鋭さ 17	5 5 16 114 新しさ	4 5 13 117 ユーモアさ 17	4 10 15 133 意外さ	27 33 74 613 合計 83	まったのか、そもそも女の人はどういう立場の人なのか。父の不倫相手?実にの母親?何も関係ない人?この場合は不倫相手と考えるのが一番わかりやさい。では父の方はどうしたのか?誰をどうして殺したのか、疑問が残りまこからミステリーが始まるような感じはいいですが、怖さが少し控えめかなと思た。例えばもっと形容しがたい化け物だったりとか、殺害されたであろう人物にが当たるような一節を入れてみるというのもいいかもしれません。 「たき、怪奇としての怖さ、というよりは、これ、人怖ですよね?娘に平然と嘘を発し、実際殺された霊も出てはくるんですが、全体的に見ると怖さは弱いです。「ちょっと文章が単調と言うか、主人公が恐怖する瞬間などがない為、鋭くは無いまです。「カム・主人公には無いと思います。ユーモアさ、母親の底知れなさが不気。ユーモアには話びつきませんでした。意外さ、母親が殺したのが夫では無く、「友」。これが意味するものとは?嫉妬?何でしょうね? 「読み終えて、おうってなりました。多分ですけど背後の女性は5代前のご先祖ですね。私の勘がそう言っております。その方のお力を借りてお母様は大それたことをやり切ったのでしょう。そこからしばしの年月、殺されたお父さんと先祖の女性は相争います。やはりですね、5代前の力というのは侮れないものでご先祖様が勝利し、お父退けられました。しかしながらDV野郎がなんで殺したって聞いてくるのはおかしいです。なのでお父さんがDV野郎だったというのは真実だったかどうか、そこには疑問ります。女性一人で成人男性を殺めて証拠となる遺体を隠し通せるかというとでは無理です。もっと恐ろしい事が隠されたお話なのかもしれません。主人公の母親が嘘をついていたことでの強さということなのか夫が実は、女性たのかというよくわからない話だったもし、前者であるならば、完全犯罪の怖さだった
12	や	黒い人影 黒い人影 黒い人影 タイトル hey、怖い話してよ。	 一般審査員H 一般審査員I 一般審査員J 合計 評価者 一般審査員A 	8 10 130 怖さ 16	6 15 119 鋭さ 17 5 18	5 5 16 114 新しさ 17	13 117 ユーモアさ 17 6 18	4 10 15 133 意外さ 16	27 33 74 613 合計 83 27 86	まったのか、そもそも女の人はどういう立場の人なのか、父の不倫相手?実にの母親?何も関係ない人?この場合は不倫相手と考えるのが一番わかりやさしょうか。では父の方はどうしたのか?誰をどうして殺したのか、疑問が残りまこからミステリーが始まるような感じはいいですが、怖さが少し控えめかなと思た。例えばもっと形容しがたい化け物だったりとか、教書されたであろう人物にが当たるような一節を入れてみるというのもいいかもしれません。
12	や や や や や 表 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤	黒い人影 黒い人影 黒い人影 タイトル hey、怖い話してよ。 hey、怖い話してよ。	 一般審査員H 一般審査員J 一般審査員J 合計 評価者 一般審査員A 一般審査員B 一般審査員C 	15 130 怖さ 16 15	6 15 119 鋭さ 17 5 18	5 16 114 新しさ 17 5 18	13 117 ユーモアさ 17 6 18	4 10 15 133 意外さ 16 5 17	74 613 合計 83 27 86	まったのか、そもそも女の人はどういう立場の人なのか。父の不倫相手?実にの母親?何も関係ない人?この場合は不倫相手と考えるのが一番わかりやさしょうか。では父の方はどうしたのか?誰をどうして殺したのか、疑問が残りまこからミステリーが始まるような感じはいいですが、徐おさかれたあろう人物にが当たるような一節を入れてみるというのもいいかもしれません。 情と怪きしての怖さ、というよりは、これ、人怖ですよね?娘に平然と嘘を視、実際殺された霊も出てはくるんですが、全体的に見ると怖さは弱いです。 な、と、新した、主人公には黒い彩に見えていたものが実は、というなもより法ですので、新しくは無いと思います。ユーモアには結びつきませんでした。 愛かさ のが実は、というのもよく見法ですので、新しくは無いと思います。ユーモアとは結びつきませんでした。 愛から 母親が殺したのが夫では無く、「女」。これが意味するものとは?嫉妬?何でしょうね? 読み終えて、おうってなりました。 多分ですけど背後の女性は5代前のご先祖ですね。 私の勘がそう言っております。 その方のお力を借りてお母様は大それたことをやり切ったのでしょう。そこからしばしの年月、殺されたお父さんと先祖の女性は相争います。 やはりですね、5代前の力というのは侮れないものでご先祖様が勝利し、お父退けられまたがあらないがでは、5代前の力というのは梅れないものでご先祖様が勝利し、お父退けられました。 しかながらDV野郎だったというのは真実だったかどうか、そこには疑問ります。女性一人で成人男性を殺めて証地となる遺体を隠し通せるかというとでは無理です。もっと必ろしい事が隠されたお話なのかもしれません。 ま人公の母親が嘘をついていたことでの強さということなのか夫が実は、女性たのかというよくわからない話だった もし、前者であるならば、完全犯罪の怖さだった 本仏で今回ユーモアよりの短縄が多いのだろうか。まあ、これは少し怖さがあな気がするけどーしい、やっぱが食いかたできる。過による怪談というさ、というは、高得点になりやすいのである。今回だってそうだ。AIによる怪談というかというがするけどーしいや、からが大事を受けている。なかなが面白い、ただ、アと唯一両立しにくく、一番重要な要素、怖さ、があまりないような気ができませんでした。これは恐ろしい、と言うより、面白すぎました。最先端をいいよりた。を増すを取りたいた。と聞きないます。素晴らしい設定でした。AIはどろやって押し入れの中にがまたりで用意して置いておいたなら、人間とAIなの日で、現実に下がなのに本文では普通だったり、見せ方によってもと感じ方が変わる作品だとした。コーの経にできなり、現実に下述してくる瞬間の不気にいたと思います。素晴らしいでき、現ではかにかり、現実に下述してくる瞬間の不気によっていまり、実の情にからも構成がしかりにしており、現実に下むとり、までいら、現実に下述してくる瞬間の不気にの世界と現実の境界が曖昧になる恐怖を刃みに演出しています。その世界と現実の境界が曖昧になる恐怖を刃みに演しています。その世界と現実の境界が曖昧になる恐怖を刃みに演しています。 これに発がで、現りないながらも構成ができないたっかに対しないといないまないまりではないないないといないないないないないないないないないないないないないないないな
12	や や や や 本 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤	黒い人影 黒い人影 黒い人影 タイトル hey、怖い話してよ。 hey、怖い話してよ。 hey、怖い話してよ。 hey、怖い話してよ。	 一般審査員H 一般審査員J 一般審査員A 一般審査員A 一般審査員C 一般審査員F 	15 130 怖さ 16 17	6 15 119 鋭さ 17 5 18	5 16 114 新しさ 17 5 18	13 117 ユーモアさ 17 6 18 18	15 133 意外さ 16 5 17	74 613 合計 83 27 86 44	まったのか、そもそも女の人はどういう立場の人なのか、次の不倫相手で実にの母親で自動関係ない人?この場合は不倫相手と考えるのが一番わかりやしょうか。では父の方はどうしたのか?誰をどうして殺したのか、疑問が残りまた。例えばもっと形容しがたいしけ物だったりとか、殺害されたであろう人物に、例えばもっと形容しがたいしけ物だったりとか、殺害されたであろう人物に含るような一節を入れてみるというのしいかもしれません。 情と体もとしての情さ、というよりは、これ、人情です。おくな際は、かまっと文章が単親と言わか、主人公が恐怖する場間などがないあ、鋭くは無いと思います。ユーモアさ、母親の庭知れなさが不気。スと、新しさ、主人公には黒い彩に見えていたものが実は、、というのもよく見法ですので、新しくは無いと思います。ユーモアさ、母親の庭知れなさが不気のユーモアには結びつきませんでした。意外さ、母親が彼したのが失では無く、「女」。これが意味する最もというのよいまで、「女」。これが意味するものとは?婉妬?何でしょうね? 魅み終えて、おうつてなりました。 多分ですけど背後の女性は5代前のご先祖ですね。 私の動がそう言っております。 その方のお力を借りております。 その方のお力を借りております。 その方のお力を借りております。 その方のお力を借りております。 その方のお力を借りております。 その方のお力を借りております。 そこからしばしの年月、殺されたお父さんと先祖の女性は相争います。 やはりですね、5代前の力というのは傷れないものでご先祖様が勝利し、お父 はけられました。 しかしながらDV野郎がなんで殺したって聞いてくるのはおかしいです。 なのでお父さんがDV野郎がらなそびたって聞いてくるのはおかしいです。 といるのお父さんがひ野郎がなんで殺したって聞いてくるのはおかしいです。 としなが場となんがひ野郎がらなりまります。 ま女性一人で成人男性を殺めて証拠となる遺体を隠し通せるかというとではま理です。もっと恋ろしい事が隠されたお話なのかもしれません。 ま人公の母が咳をついていたことでの強さということなのか夫が実は、女性たのかというよくわからない話だった。 もし、前者であるならは、完全犯罪の怖さだった。 本は恐ろしい、と言うより、面白すぎました。最先端をいくAIなのに、人間を着手がはもとしているよりないたらもと思います。ま時らしいです。 AIやチャットGPTを使った現代譚が増えてくるのは大教迎ですが、これはたが表がりました。 これは恋ろしい、と言うより、面白すぎませんでした。こういう展開の場合、おそらく方が大事でつい自分も読してかたくなら、周囲のもたいたちも、表ができませんでした。こういう根が変わる木が立ちられたなきがあるのはまかできませんが、その先のが表ののはまかでは普通だったり、見せ方によってもいるのかもしれませんが、その先のがあるのは意か過ぎると、これがらまりました。これというずいからにもまさに、今どき、というか、新しいですね。 これはまさに、今どき、というか、新しいですね。 これはまさに、今どき、というか、新しいですね。 これはまさに、今どき、というか、新しいですね。 これはまさに、今どき、というか、新しいですね。これは迷のないなでないないないないないないないないないないないないないがないないないないな
12 12 12 12 12 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16	や や や や か か 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤	黒い人影 黒い人影 黒い人影 メタイトル hey、怖い話してよ。 hey、怖い話してよ。 hey、怖い話してよ。	 一般審査員H 一般審査員I 一般審査員J 合計 評価者 一般審査員A 一般審査員C 一般審査員C 一般審査員E 	15 130 怖さ 16 17 17	15 119 鋭さ 17 16 9	5 16 114 新しさ 17 5 18	13 117 ユーモアさ 17 6 18 18	4 10 15 133 意外さ 16 5 17	27 33 33 613 合計 83 27 86 44 44	まったのか、そもそも女の人はどういう立場の人なのか、父の倫相手?実にしたうか。では父の方はどうしたのか?誰をどうして殺したのか、疑問が残りまた。何えばもか。では父の方はどうしたのか?誰をどうして殺したのか、疑問が残りまた。何えばもっと形容しがたいんに生物だったりととうか、殺害されたであろう人物にからえてサーケーを出まるような感じはいいですが、怖さが少し控えかるう人物にが当たるような一節を入れてみるというもいいかもしれません。情念、怪奇としての怖さ、というよりは、これ、人怖ですよね?娘に平然と嘘をするようなな一気を入れた温も出てはくるんですが、全体的に見ると怖さは弱いです。まっと文章が単調と言うか、主人会が恐怖する疑問などがないた。新しくは無いと思います。ユーモアさ、母親が殺したのが夫では無く、「女子と、新した、主人公には黒いめに見えていたものが実は、というのもかて気り、ユーモアには結びつきませんでした。意外さ、母親が殺したのが夫では無く、「タナーアには結びつきませんでした。意外さ、母親が殺したのが夫では無く、「タナーアはは話びつきませんでした。意外さ、母親が殺したのが夫では無く、「多かですけど背後の女性は5代前のご先祖ですね。私の勤がそう言っておりました。その方のお力を惜りてお母様は大それたことをやり切ったのでしょう。そこからしばしの年月、教女れたお公さんと先祖の女性は相争います。やはいですね、5代前の力というのは傷れないものでご先祖様が勝利し、お父はけられました。しかしながらOV野郎がなんで殺したって聞いてくるのはおかしいです。そこからは近いの年月、教女れたお公さんが上のかでは大猫型です。もつと恋ろしい事が隠されたお話なのかもしれません。上上公の母親が嘘をついていたことでの強さとなる。彼性を隠し通せるかというとま人公の母類が嘘をするというとなのかまいずらいかまかもいがまかなからない話だった。もし、前者であるならは、完全犯罪の怖さだった もし、前者であるならは、完全犯罪の怖さだった もし、前者であるならは、完全犯罪の怖さだった もし、前者であるならは、完全犯罪の怖さだった もし、前者であるならは、完全犯罪の怖さだった。Alはどうやって押し入れの中にかきなかれた紙を置いたのか人がしたのかよくわからないです。もうちよいとしたもし、日からで用窓して置いておいたなら、人間とAlの主後が逆転して、かなり持たでするといました。 短端なのに、表情ないとの中に表もいのではまると思いました。 短端なのではまずのでもまが、現実に干渉してるの時間のでもたとしたんというとはまきて、今はというのと異の娘がではないたったり、そんな未来を想像するのも怖いですね。Alに怖い話をとせいうたとしたんというのでよれら、それると、強能のを利かと見れたいったということはななものではまさい。そんな未来を想像するのも怖いですね。
12	や や や や 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤 赤	黒い人影 黒い人影 黒い人影 タイトル hey、怖い話してよ。 hey、怖い話してよ。 hey、怖い話してよ。 hey、怖い話してよ。	 一般審査員H 一般審査員I 一般審査員I 一般審査員A 一般審査員C 一般審査員D 一般審査員F 一般審査員G 	15 130 情さ 16 17 17	15 119 鋭き 17 16 9	5 16 114 新しさ 17 5 18 16	13 117 ユーモアさ 17 6 18 18	15 133 意外さ 16 5 17 13 13	74 613 合計 83 27 86 44 88	まったのか、そもそも女の人はどういう立場の人なのか。父の不倫相手と考えののが一番わかりやさしたうか。では父の方はどうしたのか?誰をどうして殺したのか、疑問が残りまた。何えばもっと形容しがたいんじけ物だったりとか、殺害されたであるう人物にからえて一かいままるような感じはいいですが、怖たが少し控えした。例えばもっと形容しがたいんじけ物だったりといか、殺害されたであろう人物にが当たるような一節を入れてみるというのもいしかもしれません。何えばもっと形容しが上れてみるというのもいしかもしれません。何えばもっと形容しが上れてみるというのもいしかもしれません。何まとしているようないかまと思えていたもならないが単調と言うが、主人なが恋情でする場合というまりは、これ、人権ですよれではないた。何まとないです。大いたものが実は、というのもよく見なった。新しくは無いと見えていたものが実は、というのもよく見しまです。かしくは無いと見えていたものが実は、というのもよく見しまでする。私しくは無いと見えていたものが実は、というのもよく見しまでする。私しまがは、また。新した、主人公には黒い影に見えていたものが実は、というのもよくりました。妻かさ、母親が殺したのが夫では無く「立み終えて、おうってなりました。妻かさ、母親が殺したのが夫では無く「立み終えて、おうってなりました。多分ですけど背後の女性は5代前のご先祖ですね。私の勤がそう言っております。その方のおかき情いですないた。他は5代前の女性は相争います。その方のおかき情いとある様にないとからなした。それらしばしの年月、殺されたおとさんが抱い手的がよったと先祖の女性は相争います。そいらいばしの年月、殺されたおとさんがいか手的がある。では無理です。もっと恐ろしい事が隠されたお話なのかもしれません。上人なの母親が嘘をついていたことでの強さとなっまが実は、女性たのかというよくかからないまだった。とし、前者であるならば、完全犯罪の怖さだった。とし、前者であるならば、完全犯罪の怖さだった。とし、前者であるならば、完全犯罪の怖さだった。とし、前者であるならば、完全犯罪の怖さだった。とし、記をしまいました。短縁を当くいとした。といがしらと関いました。知識なのでしまが、発していると思います。こんなを後いたうだったり、タイトルがキャンのは最近ではならと思いました。知識なのでしまが、発していると思いました。なのがまるのは恋が発していたり、大きにていると思いました。というのは最近ではからと相違なができたし、からいまのはまでする。シンギュラリティが叫ばれるようになったとしたりのは最近では珍しくはなくなっているのかもしれませんが、その先のしまでもあるのは意から過ぎるし、Alにこんな事が本当に出来るようになったとしいまでも、シンギュラリティが叫ばれるようにないまっという現まも生が、たっわざわざんが気を利かせて押し入れにコピー和紙を置くているしいました。といまがいかっというでもは、本当にAlにいさからを利が気を利かせて押し入れにコピー和紙を置くているしいまでも、シンギュラリティが叫ばれるようにないまかいっという、表は表に表しいまが、といらではないないい時代が次でしまからといいました。そんな未来を想像するのもにもにないないがらも相違なのではいまがないました。といらないないがらも相違なのではいまがないました。といらないないないないないないないないないないないないないないないないないないな

	CHANG×PARK CHANG×PARK CHANG×PARK	豊島君のこと	評価者 一般審査員A 一般審査員B 一般審査員C	怖さ 16 8 16	鋭さ 15 7 16	8	8	意外さ 15 6 18	ではないからである。この世には確かに不思議なことがある。同級生が人なのであることだって、あるだろう。だからといって、それがどうしたというのか。かとってマイナスが生じないのであれば、怖さを表現するのは簡単なことでほかといって、その難しさに挑戦している印象も受けなかったので、平凡な怪談じた。 37 豊島くんは宇宙人だったんですかね。それより葬儀屋になった方が気になり、パレたら葬儀屋みたいなマニュアルがあるんでしょうか、という顔をした彼の背景と自ちとと謎が残るお話です。もしかすると、豊島くんは最初からこの世のもので
- 1	CHANG×PARK CHANG×PARK		一般審査員D 一般審査員E	15	15			15	かったのかもしれませんね。豊島くんの家の跡地が、実は葬儀場であることで 島くんが主人公と出会った最初から亡くなっていたのではないか、と想像しま 豊島くんの背が伸びないという設定は、非人間感が増してとても良いと思いる 難しい言葉は使わなくても、これだけ不気味さを表現できるのだと驚きました。 豊島君が卒業アルバムにちゃんと写っているか気になります。どこで切り取る 思議なお話でした。豊島君にとっても体験者は特別な存在だったのか、「子と ま」記憶しておいてほしかった理由が何かあるのか等謎が多くて興味深いで
4 CF	CHANG×PARK	豊島君のこと	一般審査員F	16	15	16	16	17	盤で効いてきてゾッとしました。ラストの「葬儀場が建っていた」という一文も魚で、現実感と非現実の境界が崩れる瞬間を見事に描いています。短いながらと感情の移り変わりが自然で、読後にじわりと怖さが広がる良作です。
4 CF	CHANG×PARK	豊島君のこと	一般審査員G	9	11	17	17	15	が余程まずかったのでしょうか?その後、少し経って豊島君の家がなくなり、が建っていたというのは意外ではありますが、豊島君はこの世の人ではなかでしょうか。 69 豊島くんがしまった!となっているということは、豊島くん自体が怪異的な存行かなと考えました。ただ、不気味さの演出としては葬儀場だけだと少しパンチるかなと思います。何かもう一つ何か演出があるとよかったかもしれません。らない存在は羨ましいけど、子供のままはさすがに生きにくそうですねー。そると、いくら同じ時間を過ごしてもいつか友達ではなくなってしまうことが確定る豊島君はちょっと悲しい存在だなぁ、と思いました。大人になったらなんでこ
4 CF	CHANG×PARK	豊島君のこと	一般審査員H	7	6	7	9	6	供時代話すでしょうし、その時どんな気持ちで聞いているのかと思うと切ない ね。 35 怖さ、申し訳ありませんが皆無に近いです。「豊島君」が既にこの世の人では がすぐに分かりますし、終わり方も「うん。まぁ、そうなるよね」と言った感じで さ、ここもなんて言えば良いのでしょう?主人公がピンと来てないというか、忍 じているのかどうか分からず、迫り来る恐怖、と言ったものが見られないため 言われると無いですね。新しさ、正直ありきたりです。一緒に遊んでいた友達 に亡くなっていた、ありがちな話です。そもそも一年生から卒業まで背が伸び
4 CF	CHANG×PARK	豊島君のこと	一般審査員	7	6	5	5	4	た豊島君を見て、なぜ主人公は疑問を抱かなかったのでしょう?その点の違 採点に影響してしまいました。ユーモアさ、大人になってから豊島君の家の前 かの再会。そこでの彼の反応は可愛らしいな、とは思いました。ただトータル と、怪異の中にあるユーモアとは少しずれると感じます。意外さ、高得点は付 なかったですね。死にオチ、と言うのは難易度高いと思います。ましてや、早 タバラシしているなら尚更です。最後、主人公が家に取り込まれてしまう、だる らかの急転直下、ドンデン返しがあればまた違ったかも知れません。 27 クランプ先生のホリックじゃないですか! 豊島君はすでに亡くなられているんじゃないでしょうか。
									小学校には行きたかったんですね、きっと。 葬儀屋に偽装された豊島君のお家は招かれた人しかたどり着けません。 体験者は何らかの手違いで彼の家に行きついてしまったんでしょう。 慌てる豊島君の心中はいかほどのものだったかしら。 ヘタすると体験者は消されかねないです。 それをこのように人口に膾炙させようなどいけません。 身に危険が及びます。 この話詳しく調べたらいけません。
No	HANG×PARK 投稿者 CHANG×PARK	タイトル	一般審査員J 合計 評価者 一般審査員A	18 121 怖さ 15	15 114 鋭さ 17	125 新しさ	125	16 122 意外さ 19	で読むまでわからなかったところは、非常に良かったと思う
	CHANG×PARK CHANG×PARK		一般審査員B 一般審査員C	7 18	7	6			ませんでした。すいません。
5 CH	CHANG×PARK	タクシー幽霊	一般審査員D	12	12	16	16	14	良かった。短編でここまで起承転結の結でどんでん返しがあるのが秀逸でし 名については少し工夫があるとますますよかったかな、と思います。タクシー であることは最後まで隠せるような題名です。「事故の記憶」等いかがでしょう
	CHANG×PARK		一般審査員E	14	18				でいてぞくりとする緊張感が途切れませんでした。運転手が自らの過去を語で、恐怖の引き金が引かれるという構成は秀逸で、読者もまるで同乗してい錯覚を覚えます。女客の悲鳴とともに物語が一気に転調し、最後の「枯れた気に静寂へと落とす構成は、短編として非常に完成度が高いです。もう少し「血まみれの女」と「女客」の関係や対比が深く描かれると、恐怖だけ哀しさも残る、さらに印象的な作品になると感じました。
5 CH	CHANG×PARK	タクシー幽霊	一般審査員G	9	15	10	11	18	は!しかも、女客の隣に事故で運転手と一緒に亡くなったお客の幽霊も同乗るのが意外でした。自分が既に亡くなっていて幽霊なのに、女客の雰囲気やう車がなかったり、車内が寒い事に怖くなる運転手にはユーモアを感じるし直すね。とはいえ、死しても尚、一緒に亡くなった乗客を乗せたまま、生きている乗せて仕事を続けるタクシードライバーというのはちょっと切なくなりますね。 63 ひっかけにひっかけてという、展開の多いお話でした。タクシーの運転手の内かと思いきや、一番の体験者は車から飛び降りた女性だったという。短い話まってると思います。ただ、やはりこれは短編ゆえに、視点が切り替わりす
5 CH	CHANG×PARK	タクシー幽霊	一般審査員H	6	5	6	5	5	今は誰視点のお話なんだ?」となってしまって、伝わりにくくなってしまうなとした。すっとお話が入ってこないと怖さも減ってしまうので、もう少しシンプルでかったように感じます。 27 怖さ、血だらけの女の幽霊、の登場のさせ方がちょっと強引と言いますか。。結局タクシー運転手自体が亡くなっていて、生前の行為を繰り返しているようが、この二段、三段構えの設定が上手くいっていないと感じます。鋭さ、これで定まっていない為、弱いです。新しさ、死者が生前の行為を繰り返す。生きて思っていた方も実は死んでいた。ここも怪談あるあるですよね。ユーモアさ、も私には分かりませんでした。意外さ、すみませんが、見つけられませんでしシー運転手の言葉、「事故を起こして乗っていた女性ともども亡くなった」この
	CHANG×PARK		一般審査員I 一般審査員J	18	16		15	18	致命的だと思います。中盤で種明かししてしまったのが。
	投稿者	タイトル 怒りの遺骨	評価者 一般審査員A	怖さ 15	鋭さ 15	新しさ 15	ユーモアさ 17	意外さ 15	合計 書評 77 この怪談もどっちかというとユーモア寄りに感じた。「玄関マットに鎮座していう分の「鎮座」っていう表現になんとなくユーモアを感じた。私だけだろうか。それの評価項目はあまり満たしていないので、高く評価することはできない。ただ後、骨だけの姿になっても意思を持って動けたら、どんな気分なんだろう?えた。結局遺骨はどうしたのだろうか。続きが気になる、というのは短編にとことなのだろうか。
		怒りの遺骨 怒りの遺骨	一般審査員B	15	15	·	, and the second		嘘くさくなります。
	大田 ユミ子	怒りの遺骨 怒りの遺骨	一般審査員D 一般審査員E	16	13	17		16	わず『位牌 配送』と検索してしまいました…その発想はなかったです。ですがでは密かにこういうことは起きているかも、と思ってしまいました。自分が買っと同じトラックに何があるか考えたこともありませんでしが、ちょっと想像したがでくでしてしまいました。 40 ホラーの中にリアルな「生活感」があることで、怖さと同時に妙な可笑しみも思いをしないました。母の死後という重い題材を扱いながら、終盤での"遺宅"という展開にユーモアと不気味さが絶妙に共存しています。特に「宅配は
8 太	大田 ユミ子	怒りの遺骨	一般審査員F	17	17	18	17	17	という現代的な安心感を裏切るオチが秀逸で、日常のすぐ隣にある異界を感ました。 ただ、ラストの「鎮座していた」という表現が少し落ち着きすぎているため、もう 階、ぞくりとする余韻を残す描写にしてもよいかもしれません。静かで洒落の た、完成度の高い日常怪談でした。
8 太	大田 ユミ子	怒りの遺骨	一般審査員G	10	9	13	15	14	けど、お母さんの怒りの念だったにしても、どうやって戻って来たのだろう、とと謎だし不思議ですね。 61 お母さんが「こら・ダメでしょ・」って怒ってるような感じがして、なんとなくほってしまいました。語り手の非常識さと思いやりのなさにはゾッとしましたが…。なんて、故人そのものの塊をポンと送ってしまえば、そりゃあ何かしら起きまむしろ無事に返ってきてくれて良かったのかもしれません。怖さでいうとそこまなかったというのが素直な感想です。もう一声何か心霊現象の描写があると違ったかもしれません。もしくはもっと常識外れな感じを出してヒトコワ要素も
		怒りの遺骨	一般審査員H	11	9	10			違ったかもしれません。もしくはもっと常識外れな感じを出してヒトコワ要素もというのもいいのかなと思いました。 1 怖さ、最後は確かに怖さも感じますが、それでも少し弱いかな。仄かに亡くな親の影をほのめかす、等あっても良かったかも。鋭さ、ストーリー展開が淡々いるためか鋭さは感じませんでした。新しさ、遺骨となった母親の最後の自己それをこういう表現にしたのは新しさも感じます。ただ、何となく筋書きが読めうと言いますか。ユーモアさ、何を以てユーモアと捉えるかによって評価分かな、という印象。主人公が遺骨を宅配で送る辺りは大概ですが。意外さ、遺骨力で?帰ってくるラスト、です。母親が枕元に立つ、とかでは無いんですね。
8 太	太田 ユミ子	怒りの遺骨	一般審査員I	5	3	5	5	1	19 不謹慎系! やってはならぬと言うルールを手前勝手に捻じ曲げた結果、遺骨が玄関に戻たのですね。 良かったですね。それだけで済んで。お母様優しいですよ! なーにーが日本の宅配便は優秀だ、だよー! 運ばされる方の身にもなってくださいね! お姉さまも驚かれて当然です。 っていうかほんとちゃんとしたら負け、みたいな人間は存在します。 これはヒトコワです。
10	投稿者	怒りの遺骨タイトル訪問	一般審査員J 合計 評価者 一般審査員A	16 121 怖さ	15 109 鋭さ 17	122 新しさ	129 ユーモアさ	15 120 意外さ	これはヒトコワです。 わが身を振り返ってまっとうに生きたいと思いました。 77 マナー違反を怒られたのではないかと思わせるユーモアがある話だったと思 人的には良かった ただし、マナー違反はだめであると思う 601 舎計 書評
13 や	Þま	訪問訪問	一般審査員A 一般審査員B 一般審査員C	7 18	17 6 15	7	6		よ」っていうセリフは言っちゃいかんだろ。他の人たちはもう逮捕されてんだかもこのセリフが一番面白いんだよな一。怖さとユーモアのパランスをとれていもいいセリフなんだが。まあ、正直に語っていてよろしい、ということにしておきう。ついでに警察にも連絡を。「あ、もしもし? 実はうちの母がですね・・・・・ 33 伯父さんは母親の兄か、父親の兄かでだいぶ怖さが変わりますが実の兄をまで財産が欲しいってだいぶヤバいですね。 60 怖い怖い!自分の母親が伯父殺しに加担していると知った主人公の気持ちがばかりでしょうか。伯父さんに可愛がってもらった主人公の夢に伯父さんか
3 や	-b-s	訪問	一般審査員D	12	10	15	14	15	てくれないという伏線があり、主人公が淋しい気持ちでいるところに伯父さんを殺した親族のところに行っていたことに主人が気づく。そこでは終わらずの母親が伯父の夢を見ると言う三段階の謎解き。短文なのにとても読み応えました。素晴らしいです。題名も「なんだろう?」と読むものを惹きつけながらは明かさない良い塩梅で、非常に良かったです。
13 6		訪問	一般審査員E	18	9	C			44 この怪談は身近な存在の裏の顔という怖さが際立っていますね。伯父の死とれる姿という一見ほのぼのした描写から、親戚たちの犯罪と母の関与というで衝撃的な恐怖に繋がる展開が絶妙です。夢という非現実的な要素が、現実 怖を際立たせる効果もあります。ラストで母が夢に出てきたと告げる一言だり 族全体に潜む暗い秘密が示唆され、読者にぞくりとする余韻を残します。文章 適度で、テンポよく読み進められる点も評価できます。 85 急死してしまった伯父さんの死因は何だったのでしょうか。一見、夢枕に立って親戚の人達は伯父さんの死にどう関与したのでしょうか。一見、夢枕に立って
13 や	う ま	訪問	一般審査員G	16	10	15	14	18	行ったと。そして母も共犯ということが語り手には分かってしまって、肝が冷え ね。嫌な話とオカルト要素が組み合わさっているバランスのいいお話でした。 り手を可愛がっていたということは、次に魔の手が伸びるのは語り手だったか
3 や	5 ま	訪問	一般審査員H	5	5	5	6	5	夢枕に立つという現象や理由は、怪異、という意味での怖さはほぼ感じませた。鋭さ、ここもそうです。何と言うかゾワッとくるものが無いんですよね。新しや一、これは。新しくは無いかと。主人公のところにだけ夢に出て来ない、と言でその後の展開に想像がつきます。ユーモアさ、ショート部門ですから仕方なが、欲深い親戚達を描いてみても良かったかも。意外さ、伯父が夢枕に立つ
13 や	うま	訪問	一般審査員	11	5	5	5	10	テンポがよくスッと入ってくるのが良いです。 急死というと毒殺とか事故を装った殺人! 恐ろしいですね。 人間の欲望とは際限がない。 お母様の夢枕に立った伯父さまは報告に来られたのでしょうか。 多分そう。
No	投稿者	訪問 タイトル 私はミイちゃん	一般審査員J 合計 評価者 一般審査員A	15 128 怖さ 20	15 109 鋭さ 18	118 新しさ	113 ユーモアさ	15 131 意外さ 16	599
		私はミイちゃん私はミイちゃん	一般審査員B 一般審査員C	7	6				あと何も話さなくなるよりはまたオウム返しした方がリアリティがあると思いま
		私はミイちゃん私はミイちゃん	一般審査員D 一般審査員E	12	14				のぬいぐるみに取り込まれているかもしれませんね。読んだ人の数だけ考察する、そんなこの短編に、拍手を送りたいです。 9 可愛いぬいぐるみと発した言葉のギャップがこの作品の肝となる部分だと思が、個人的に怖いポイントが見つかりませんでした。どんな音声だったのからがないので、怖くなるかもしれない部分が物足りないまま終わってしまいまし編作品の言葉選びは難しいところですが、そこのひと工夫でもっと不気味なくなれると思いました。 44 子どもの玩具を通して起きる怪異という、身近でありながら根源的な恐怖を多
7 赤	た戸青人	私はミイちゃん	一般審査員F	18	17	18	17	17	パターンも新しいと言えば新しいし、結末が意外でもある。話しかけたら同じ
7 赤	た戸青人	私はミイちゃん	一般審査員G	15	10	14	9	13	繰り返すおもちゃのぬいぐるみは、心霊スポットでの検証にも利用されたりしが、勝手に喋り出すような事があればそれこそ怪談になる。行方不明になった娘さんがどこにでも持ち歩いていたぬいぐるみが発見されて、お母さんが「呟いた「それはどこにいるの」と言う言葉には胸が痛むけれど、気持ちはわかれに、「ここだよ」と答えるまさかのぬいぐるみ。単なる誤作動なのか、娘さん宿ったのか。ぬいぐるみと同化してしまった?見つからないのが空しくなりね。
7 赤	5.戸青人	私はミイちゃん	一般審査員H	12	10	10	8	11	終的に言葉を話さなくなってしまったということは、結局親は取り残されているので、とてもやりきれない。もしかして、そもそも子供の魂を取り込むということ 提のおもちゃで、元々話していたのは前の持ち主だったりして?という考察もました。だとしたらめちゃくちゃ質の悪いおもちゃだなと思いますね。日本的なというより、なんとなく西洋の悪魔的なホラーを感じました。 「「「怖さ、ぬいぐるみが出てくる時点で嫌な予感しかしませんでしたが、やはり、と感じでした。後味悪くて、怖い話。鋭さ、もう少しぬいぐるみの不気味さが出てば、鋭さが増した気はします。新しさ、人形、ぬいぐるみ、自体は新しいとは言ですが、娘がぬいぐるみの中に取り込まれたであろうと言う終わり方は、新し
7 赤	卡戸青人	私はミイちゃん	一般審査員I	2	1	1	5	5	と思います。ユーモアさ、ここは流石に。救いのない終わりかたなので。意外いった形の幕引きもあるんだ、と言う点です。主人公の娘は「死んでは」いないされている。ある意味亡くなるより始末が悪いですが。 14 嫌なお話ですね! ミイちゃんは何処でどうしているのでしょうか。 オウム返ししかしないはずのぬいぐるみが会話になるような返事をするのが点ってことになるんでしょうか。 怪談脳を発揮すればそのぬいぐるみに曰くがあるって事になるんでしょうけととはいえお嬢さんが行方不明なんですから
7 赤 No	た戸青人 投稿者	私はミイちゃん タイトル	一般審査員J 合計 評価者	15 123 怖さ	17 116 鋭さ	17 122 新しさ		15 122 意外さ	そんなこたぁ二の次ですよね。 大事な娘が見つからないんですから。 娘は見つからない。 じゃあねぇだろ!探せ!って思いました。 5 79 くまのぬいぐるみは、くまだったのかと思わせた非常に怖い話だった
9 赤	5戸青人	車椅子車椅子	一般審査員A	6	5	5	6	5	は、それなりの事情があるはずなのだが、あえて書いていないのだろう。しかえてにしても、何も書かないと、こちらもまったくわからない。屋上の手すりのうのは「自殺」をほのめかすヒントなのだろうか? 想像するのも楽しいけど、し描写や説明があってもよかったと思う。階段を上がっていく描写を短くまととう少し背景に関して触れてみてもよかったかもしれない。 27 怖さがあまり伝わらないのと屋上は鍵がかかっているのに誰が見つけたんで信憑性が欠けると途端につまらなくなるから、それをやるなら補足が必要です。
		車椅子	一般審査員C	15	15			16	の前に移動してからは、自ら動き 回ることがなくなったとは!車椅子をうごかしていた何かが、屋上から身投けでしょうか、幽霊が二度死ぬ?考えたこともない設定です。また、動かなくな一端人の噂にも上らなくなったというのが、物悲しくてしかも現実にありそうで、いお話の締め方だと思いました。このままの題名でもシンブルで良いと思いる「操作者の行方」など、少しお話の内容を具体的に予想させるものでも良かな、と思います。 2 全体的に説明文のようで、わくわくできるところがありませんでした。淡々と指
9 赤	· 下戸青人	車椅子	一般審査員E	8	10	10	12	12	作品は好きですがちょっと違う鍵がかかって普段人が立ち入る場所ではな言いつつ簡単に見つかったような感じで描かれてしまうのも残念。 2 とても完成度の高いショート怪談だと感じました。描写は淡々としているのに子の「階を上っていく」という異常さが静かに積み重なり、最後の「屋上」で一怖が頂点に達します。直接的な恐怖描写がない分、読者の想像を刺激し、「何があったのか」「なぜ動かなくなったのか」といった余韻を強く残します。学り身近な舞台設定も効果的で、現実の風景にそのまま溶け込むリアルさがあり説明を排し、事実の列挙だけで怪異を立ち上げる構成が見事で、まさに"語りる系の学校怪談"として秀逸な一篇でした。
	·F. 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	車椅子車椅子	一般審査員F	17	17	16		16	が怖いですね。昔、その車椅子を利用していた生徒がいて、屋上から飛び下まったのでしょうか?元の位置に戻しても戻しても勝手に動いては別の場所がるというのは怖いですし、その車椅子に幽霊が乗って動いているとしか思いですね。ただ、鍵がかかっている屋上で車椅子が発見されるというのは物理不思議で不気味ですね。最後に屋上で見つかってから車椅子は動かなくなっいうなら、霊はそこで納得したのでしょうか。 49 一番嫌な想像としては、元々の持ち主がいじめられてて、最終的に飛び降り
9 赤	た戸青人	車椅子	一般審査員H	5	5	7	6	6	異、が曖昧模糊としすぎです。読み手の想像で補完させるにしても、読み物 もう少し伝わりやすくして欲しいです。鋭さ、も同様。緊迫感、恐怖心、迫り来
9 赤	5戸青人	車椅子	一般審査員	1	5	5	6	7	に欠けているため、鋭さも感じません。新しさ、これは、、車椅子を登場させたちょっと。ありきたりだと思いました。ユーモアさ、これもなぁ。車椅子があち、移動する様子はある意味、ユーモアとも言えますが、決定打に欠けます。意はぼ無いと感じました。車椅子の描き方です。ラストが何となく想像できてします。 24 誰かが動かしていた車いすのお話でしょうか。 鍵が必要な屋上で見つかったのを最後に動かなくなったという事から想像し、飽きたという事がいえるかと思います。
9 赤	· 下戸青人	車椅子	一般審査員J	16	15	15	12	13	または最初は話題になるから面白がって動かしていたけれど調子に乗って原 移動させたところいたずらの範疇を超えてしまった。周囲がヨクナイざわつきたのでほとぼりを冷まそうとしたと思われます。 愉快犯です。 鍵をちょろまかしたのはやりすぎでしたね。 または鍵が使える立場の人物の仕業です。 1 車椅子になにか取り憑かれていたのか、その取り付いていたものが、屋上にかった理由が気になった
+			合計	106	107	115	113	112	屋上に行って、何がしたかったのかが気になる 2 553